

「中・小物の自動車部品ならお任せ」。 日本有数の設備と技術力で 九州の自動車産業を牽引する。

松野プレス工業株式会社

中・小物の骨格部品では九州で一、 二の実績

自動車産業の一大生産拠点である九州には、数多くのプレス加工メーカーが集結している。そのなかで異彩を放っているのが松野プレス工業(株)だ。中・小物用品のプレス加工を専門に手がけるメーカーで、とくに、車体を構成する骨格部品の生産には定評がある。この分野では、九州で一、二の技術力と実績を誇る。

具体的には、エンジン周りやダッシュボードなどの補強品、エアバッグの筐体、エキゾースト・マニホールドなどの排気系部品、ステアリング周り、シートマウントなどの各種部品を、月に1300種類ほどつくっている。

数にすると1種類あたり平均3000個、毎月の納品数はトータルで300~500万個にのぼる。モノによっては、サブアッシーまで手がけ、その割合は年々増えている。

日産、トヨタ、ダイハツの部品を生産

創業は、大手電機メーカーの社員であった松野水治氏が独立し、北九州市八幡西区で電器関連部品のプレス加工を開始した昭和25年。今年、創業60周年を迎える。

自動車メーカーのなかで九州に最初に工場を建設したのは日産自動車である。同社が九州進出を表明した際、地場のプレス加工メーカーとして真っ先に手を挙げたのが2代目社長松野由孝氏で、昭和50年の操業開始と同時に部品を供給し始めた。このとき以来、自動車部品の専門メーカーに生まれ変わった同社は、平成16年からトヨタやダイハツの一次下請メーカーとも取引を開始。最盛期には41億円もの売上高を計上するまでになった。

現時点における業容は、資本金1350万円、社員数167名、売上高約28億円(平成21年10月期)。売上高の約8割が日産自動車向けである。



▲NS2-200トン レバーフィーダ付 順送ライン



▲NC1-110トン ロボット5台ライン



▲NS2-200トン レバーフィーダ付 順送ライン

九州で初めてエキゾースト・マニホールドをプレス加工でつくる

電機関係の部品と自動車部品とでは、機能や形状がまるで違うし、つくり方も異なる。それ以上に、取引先の社風や文化の違いも大きい。そうした違いを克服しながら今日を築くまでには相応の苦労があった。

「それらを乗り越えて自動車部品専門のメーカーに脱皮できたのは、プレスメーカーとして九州一になりたいという思いと、どんな困難な仕事でも決してギブアップせず、最後までやり通すという当社ならではのカルチャーがあったから」

こう語るのは、3代目として平成14年から社長を務めている大下隆氏。ちなみに、同氏は大手繊維メーカーのエンジニアから系列工作機械メーカーの技術本部長に転じ、多くの機械を開発したという経歴の持ち主である。

ギブアップしない精神については、15年ほど前、従来は鋳物製だったV型6気筒のエキゾースト・マニホールドを九州で初めてプレス加工でつくり、大幅な軽量化とコスト低減につなげたというエピソードを話してくれた。目処がたつまでに1年ほどかかったが、その間、開発担当者の誰1人として音をあげる者はいなかったという。

100品目の加工を一挙に立ち上げるプロセスにノウハウと強みがある

技術的にはどんなところに強みがあるのか。この点に

ついては、プレス技術の専門家である業務部長を務める松野信也取締役が話してくれた。

同社は、75台のプレス機を保有している。すべて300トン以下で、主力は100トンから150トン。これらのプレス機を使って、ペーサーライン10本とロボットライン1本、計11本のラインを組んでいる。

“形状もの”が多いため、なかなか順送ができないこともあってこういう形態を採っているのだそうだが、これだけのラインを組んでいるプレス加工メーカーは日本でも数少ない。しかし、ラインをいくら組んでもうまく活用できなければ宝の持ち腐れだ。その点はどうか。実は、同社の最大の強みは、このラインを使いこなすノウハウにある。

「当社の場合、1つの車種につき、多いときは100点ほどの部品を受注します。その100品目をこのラインに載せて一挙に立ち上げるのですが、それができるのは、当社の最大の強みであると自負しています」と、松野取締役。

この「立ち上がりプロセス」には、さまざまなノウハウが含まれている。それを担当社員の1人ひとりがモノにし、使いこなすことで、同社の得意技である「絞り加工」も活かせるし、急な設計変更にも対応できる。

「これだけの点数の部品を一挙に製造するとなると、金型の数も膨大になります。それだけの金型を自社でつくるのは不可能なので、外注しています。ただし、メンテナンスは100%当社が行い、検具も自分たちでつくるなどして精度と品質には万全を期しています」(松野取締役)



▲第1工場 順送プレスライン

AIDA社製のプレス機を買うのが夢だった

75台のプレス機のうち、AIDA社製のプレス機は50数台と過半を占める。その理由については、創業者の次のようなエピソードを記すだけでわかってもらえるに違いない。

創業者は、常々、こう語っていたようだ。

「この仕事を始めたとき、AIDA社のプレス機を購入するのが夢だった。AIDA社製の初号機を買うことができたのは、昭和43年。創業から18年目のことだった。一種のステータスを得た思いで、“よくやった”と自分を褒めた」
型番は、「PC-5」。55トンのプレス機だったという。

九州一から日本一へ

大下社長は、同社の将来について、次のように話す。

「自動車の海外現地生産がこれ以上増えると、日本で生き残れるプレス加工メーカーは必然的に限られてきます。どんな時代になっても生き残れる会社であるためには、もっと技術を磨いてエクセレントにならないといけない。そのために、いくつか手を打っています」

たとえば、技術やノウハウを誰でもすぐに使えるようにコンピュータ化しつつあるのもそのひとつ。また、サーボ仕様のプレス機を導入して絞りはじめとする加工技術のさらなる高度化を進めることも検討しているという。

「当社にサーボ機が入ることによってどんなことができるか。楽しみにしています」

もう一点、付加価値を高めて利益率をあげるために、プレス後の組立加工をもっと高度化したい、という思い



▲本社・第1工場前景



代表取締役 社長

大下 隆 氏



取締役

松野 信也 氏

松野プレス工業株式会社

<http://www.matsuno-press.co.jp>

会社のあらまし

所在地 福岡県直方市中泉891-6

TEL 0949-24-1111 FAX 0949-24-9524

代表取締役 大下 隆

創業 昭和25年8月

社員数 167名

資本金 1,350万円

売上高 約28億円(21年10月期)

も持っている。

九州一から日本一へ。同社の挑戦は、これからも続く――。



▲製品例



▲製品例



▲製品例



▲リンクモーションプレスPMX-300トン ロールフィード付順送ライン



▲CAD/CAM設計室



▲金型加工場のマシニングセンタ



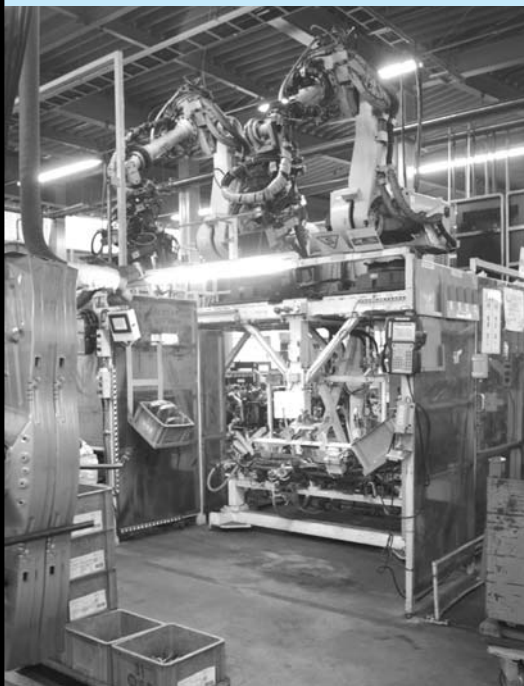
▲ワイヤーカット放電加工機



▲マシニングセンタ



▲マシニングセンタ



▲スポット溶接ロボット



▲スポット溶接ライン



▲スポット溶接ライン



▲アーク溶接ロボット



▲製品形状検査具



三次元測定器▶